



みずの通信

水野会計事務所

500-8288 岐阜市中鶉 3-70-7

TEL058-273-2484 FAX058-273-2416

2020.9

暑い日々が続きます。税金ネタ、給付金ネタは、一度書きましたが、避けました。

手塚治虫原作「火の鳥」「鳳凰編」(若者が熱く語るのを聞いて、再度書きました。))

手塚治虫の「火の鳥」は私の学生時代のバイブルといわれたコミックです。

その中の「鳳凰編」、平城京の時代、東大寺の大仏建立にまつわる仏師のドラマが描かれます。主人公の一人、仏師茜丸が、修行のため地方を行脚しているところを、急遽、朝廷の命により囚われ、強制的に平城京へ連れていかれますが、その後、東大寺建立の中心人物として地位を固めていきます。

岐阜市唯一の国宝「金銅獅子唐草文鉢」、岐阜市雄総の護国之寺にあります。これは、聖武天皇が、東大寺建立に多大な功績があったとして、日野金丸なる若者に授けたものとされています。そしてその金丸は、全国に優秀な仏師はいないかとの朝廷の命により探し出された岐阜に住む若者ということです。

コミックでは「茜丸」で「金丸」ではありませんが、「茜丸」の「茜」は「茜部」の「茜」です。そして茜部は、平安京の時代から東大寺の荘園で、「茜部庄」と呼ばれていました。

手塚治虫が「茜丸」との名前にしたのは、ここからきていと容易に想像できます。

「金銅獅子唐草文鉢」のコピーは岐阜市歴史博物館に展示されています。そしてその謂れも書かれています。

加納城

加納城は徳川家康の長女「亀姫」の居城です。

亀姫といっても、知らない人が多いと思います。あまり歴史的書物に記載がなく、あるとすれば、焼きもちやきで侍女を12人もリンチしたとか、宇都宮城釣天井事件をでっち上げたとか、です。でも、それは、少し可哀そうに感じます。

家康が今川家の人質となっていた時期に、今川家ゆかりの瀬名を正室として迎え入れ、長男信康と長女亀姫をもうけます。桶狭間の戦いで今川義元が打ち取られた際、今川方で戦っていた家康は、自らの地、三河へ逃げ延びます。これにより、家康と家族は別れ別れの生活をする事になります。

月日がたち、家康は家族を無事三河に迎え入れることができるようになるわけですが、瀬奈と長男信康は武田方に通じているとして織田信長の命により自らの手で処刑することとなります。ドラマでは、その時の家康の苦渋の様子が描かれますが、ほとんどドラマでは無視されている亀姫の心情はどうだったでしょう。父の手により母が殺され、兄が殺される、父の苦悩を感じて、察して余りある思いではなかったかと思います。

亀姫の夫は奥平信昌です。

奥平信昌は長篠城主で、武田家に仕えていましたが、亀姫と結婚させること等を条件に家康方に寝返りました。



鉄砲隊の三段射ちにより武田騎馬軍団を粉砕したという有名な長篠の戦いが始まるまでの間、長篠城で籠城し、武田軍の猛攻を凌いだといわれる猛将です。戦いの後、長篠城を檢分した家康が、あまりの惨状を見て、言葉を失ったとの逸話があるほどです。

亀姫と奥平信昌は、その後、新城城を居城として4人の男子を授かります。そして、関ヶ原の戦い後、2人は三男と共に加納城に居を移すことになります。

関ヶ原の戦いが終わると、もはや徳川家康の天下か？ 多くのドラマがそのように描いています。ですから家康の長女であることを鼻にかけて、焼きもちを焼いて侍女をリンチしたなどの話が残るのでしょうか。

関ヶ原の戦いは、石田三成と反石田三成の戦いでしたし、徳川秀忠が徳川軍本隊を真田上田城にて足止めを食らい、合戦に参加できなかったこともあって、戦後の論功報奨により、結果として豊臣家の譜代大名の力が増すことになります。畳みかけることができない限り、冷戦状態となったわけです。これにより、加納城は長篠城と同じように、開戦となったときの三河の地を守るための最重要拠点となりました。この夫婦に託された使命はとても大きなものでした。大阪の陣の後、徳川家康は間もなく亡くなりました。夫奥平信昌、跡継ぎであった三男、宇都宮藩主の長男はすでに亡くなっています。前門の豊臣家が滅び、後門に尾張藩ができていくことにより、加納城の戦略的重要性はうすれます。

亀姫は、1625年加納の地で亡くなります。

唯一生き残った四男（次男は早逝しています。）は、幼くして家康の養子として「松平」を名乗り「松平忠明」となります。大阪の陣で軍功を上げ、徳川大阪城の初代城主になり、戦後処理を行い、大阪の水路の整備等の土木事業を手掛け、「道頓堀」の名も忠明が付けたともいわれています。その後、大和郡山城の城主となり、姫路城の城主となり、幕政の中心人物となっていきます。正室の血筋の難しさを感じとっていたであろう亀姫にとっては、望外の喜びであったと思います。

某洋菓子屋さんのコロナ対策です。

行列は一定間隔があくように地面に立ち位置の印が設けられています。これは他でもよく見かけます。そして、「ショーケースの前で商品を選ぶ人」「注文をする人」「商品の受け取りを待つ人」「代金を支払う人」これらが、順番がしっかりと決められていて、密になることなく、気持ちよく流れていきます。

経営者が替わってリニューアルした水琴亭でランチしました。

庭を観ながら開放的なところで美味しく食事ができました。水琴亭は柳津町出身の原三溪ゆかりの建物です。貴重な建物の中を拝見し、ちょっとした旅行気分になりました。

パジェロ製造㈱が閉鎖となりました。

まだ東洋工機㈱という名前であったころ、設備近代化資金という県の公的融資の関係で、診断にお邪魔したことがありました。遠い昔のことではありますが、思うところはあります。

長良川河畔のぶどう直売場

（心の四季より）～ 光がぶどうの丸い頬をみがく、夏がそれだけ輝きを増す ～
すっかり夏の風物詩になりました。多くの自動車で賑わいます。今年によく買いました。

赤い林檎の頬をして／眠っている奈々子。 ～略～

お前にあげたいものは。

香りのいい健康と／かちとるにむづかしく

はぐくむにむづかしい／自分を愛する心だ。 （吉野弘「奈々子」）

